

在外教育施設におけるキャリア教育の実践

前青島日本人学校 教諭

鹿児島県鹿児島市立武中学校 教諭 今村 圭

キーワード：キャリア教育，日本への帰国進学指導，職場体験学習

1. はじめに

青島日本人学校がある青島市は、孔子、孟子など、歴史的に有名な人物を生み出した中華人民共和国（以下、中国と略す）山東省の南東部にあり、黄海に面している。温暖な海洋性気候で夏でも過ごしやすく、中国国内では避暑地としても有名である。1898年にドイツ租界となり開発が進められ、赤いレンガ屋根の建物が多く残る旧市街地と高層ビルが立ち並ぶ新市街地に分けられ、ヨーロッパとアジアの風情が一体となった海浜都市である。2008年には北京オリンピックのセーリング競技会場として脚光を浴び、経済発展・都市開発の著しい都市である。世界的に有名な青島ビールをはじめ、農業や繊維業、豊富な海産物を活かした食品加工業などが主な地場産業である。青島市内にはおよそ3,000人の日本人が在住しており、児童生徒数は小学部・中学部合わせて80名という小規模の在外教育施設である。

本校は、平成16年4月に開校して以来、児童生徒数も徐々に増加しつつある。また、平成20年度2学期には新校舎が完成し、今後、更に生徒数が増加することが期待されている。私が赴任した平成18年4月は、初めて中学部3年生が在籍し、小学部から中学部まで9学年のすべてがそろってスタートする年でもあった。

青島市内には、日系の私立学校や国際部がなく、中学部卒業後の進学先としては、現地校国際部かインターナショナルスクール、または、帰国して高等学校等への進学となる。そのような状況の中で、日本人学校としてキャリア教育の充実が課題であると考え、キャリア教育に関する教育課程の充実を目指して実践を行った。

本実践記録では、そのようなキャリア教育の充実を図るために取り組んできた実践例を中心にまとめることにする。

2. 活動の実際

(1) 進路指導年間計画の作成

本校中学部としては、初年度に当たるため、3年間を見通した進路指導計画を作成し、全職員及び保護者が共通認識を持って、生徒の進路実現に努める必要があると考えた。また、作成に当たっては、転出入が多いことと少人数であることを考慮し、日本における進路指導の系統性を基本にしながら、全学年での職場体験学習や実力（学力）テストの実施など、本校なりの特性を生かせる教育活動を実践できるよう工夫し

表1 3年間の進路指導計画（平成19年度）

学年	月	生徒	保護者	学校
中学二年	4	進路希望調査		進路指導計画・進路希望調査
	5	家庭訪問	家庭訪問	家庭訪問
	6	2者面談 職場体験学習		2者面談 職場体験学習
	9	第1回実力テスト		第1回実力テスト
	12	個人面談	個人面談	個人面談
	1	第2回実力テスト		第2回実力テスト
中学三年	2	進路希望調査		進路希望調査
	4	第3回実力テスト 進路希望調査		第3回実力テスト 進路希望調査
	5	家庭訪問	家庭訪問	家庭訪問
	6	職場体験学習		職場体験学習
	7	夏休みの計画		夏休みの計画（学校説明会等の案内）
	8	オープンスクールへの参加【帰国生】	帰国生のための学校説明会への参加	
	9	第4回実力テスト		第4回実力テスト
	12	個人面談	個人面談	個人面談
	1	第5回実力テスト		第5回実力テスト
2		進路説明会	進路説明会	
中学三年	4	第6回実力テスト 進路希望調査		第6回実力テスト 進路希望調査
	5	家庭訪問	家庭訪問	家庭訪問
	6	職場体験学習		職場体験学習
	7	夏休みの計画		夏休みの計画（学校説明会等の案内）
	8	オープンスクールへの参加【帰国生】	帰国生のための学校説明会への参加	学校訪問・情報収集【日本】
	9	第7回実力テスト	卒業後の所在の確定	第7回実力テスト
	10	受験高校の決定	募集要項などの収集	
	11	三者面談	三者面談	三者面談 特別選抜委員会→職員会議
	12	現地校国際部入試		帰国生のための受験指導 調査書などの作成
	1	私立特別選抜入試	受験引率	受験に関する動向の把握
	2	私立一般入試 公立特別入試	受験引率	
	3	公立一般入試	受験引率	

た。(表1)

(2) 進路説明会

卒業後の進路については、保護者の職業との関連が大変大きい。本校の保護者のほとんどがサラリーマンであり、卒業のタイミングでどのような家庭環境にあるかについて、明確になっている場合は少なく、幅広く確かな情報提供が必要になる。そこで、毎年、2月に小学部6年と中学部1・2年生の保護者を対象に進路説明会を開き、中学部卒業までの進路指導計画と卒業後の進路について、教職員と保護者が共通理解する場を設けている。

説明会に向けての準備としては、同じ在中国華東地区の北京・天津両校の実践を参考に、計画・運営を行った。説明会においては、中学部卒業時での家族のライフスタイルを考慮しておかないといけないことや日本での居住地区・受け入れ校の現状などについて情報提供した。

参加した保護者からは、「これまであまり現実的な問題として考えていなかったが、海外で生活していると進路に関する情報が入手しにくく、親子で計画的に取り組んでいかなければならないことがわかった。」という感想が多く、進路に対して保護者に啓発する上で、大変有効であったと考えられる。

(3) 職場体験学習

本校では、平成18年度から本校中学部進路学習の一環として職場体験学習を実施している。在外教育施設に通学する生徒にとって、身近な人々の働く姿に直接触れる機会は少ない。また、将来の生き方についての刺激を受ける機会が日本に比べると極端に少ない。そこで、現地日本人会やJETRO青島事務所等の協力を得て、職場体験学習を実施し、生徒に働くことの意義や職場で働く方々の生き方に触れ、将来の進路選択につながるような体験的な活動を教育活動の中に位置づけて実施している。



写真1 スーパーマーケットでの職場体験

① 協力事業所開拓及び受け入れ依頼

受け入れる事業所については、青島日本人会へ協力依頼し、受け入れ可能な事業所を紹介いただいた。さらに、学校職員が事業所に直接出向き、趣旨説明・仕事内容などの確認を行った。協力頂く事業所としての条件は、①日本語で対応できること、②日本人のお客が多く、主に接客する業種、③日本人に対する知名度があること、の3つを前提とし開拓した。現実的には、上の3つの条件をすべて満たす事業所として多かったのは、日本人が経営する日本料理店であった。

② ねらい

- ア 職業体験を通して、今後の自分の進路選択を再考する機会とする。
- イ 各職場での生活体験を通して、働くことの意義や職業に対する理解を深める。
- ウ 職場での人間関係を体験することによって、社会性を備えた人間としての資質を高める。
- エ 労働を通して、規則正しい生活習慣の必要性を理解する。

③ 実施について

年間1回1日、中学部1年生から3年生までの3学年で実施している。年間で1日しか実施できない現状であるが、中学3年間を通して、3つの事業所を体験できることになる。また、受け入れ事業所についても、日本人社会において日本人学校の特色ある教育活動が話題となり、初年度7事業所で行っていたが、本年度は12事業所に協力いただき、徐々にではあるが職種に広がりが見えつつある。(表2)

④ 保護者の協力

日本人学校の保護者からご協力いただき、体験学習先の事業所へ生徒を迎えていただくようにしている。協力いただいた事業所の方への感謝の意を保護者として伝えていただいたり、青島在住の日本人同士として、コミュニケーションを深めたりするねらいがあった。このように保護者の方にも、学校の教育活動に対しての理解を深めていただくことで、保護者の方から、新しい職場を紹介いただくことも可能になると考えた。

(4) 進路情報収集

各都道府県から派遣される教員が在籍する都道府県と日本人学校を卒業する生徒が進学希望する都道府県がうまく合致することは稀である。帰国を希望する生徒が帰国後に進学希望する公立高校や私立高校の進路手続きを的確に行うために、中学部3年担任は、夏季休業を利用して、日本へ一時帰国し、生徒の希望する高等学校を直接訪問し、進路状況や進学手続きなど、情報収集を行う。これは、先進日本人学校の実践を参考に、実施することになった。実施にあたっては、前年度2月の2年学年PTAにおいて、保護者へ年間計画を示し、見通しを持っていただけようとした。具体的には、これまでの実力（学力）テストの結果やオープンスクールへの参加、個別の学校訪問などから、3年生5月の家庭訪問では、進路希望先高等学校や帰国予定の都道府県を明確にして頂いた。そして、その希望を受け、3年生の担任は、志望校や帰国後の居住予定地の教育委員会と連絡をとり、夏季休業中に訪問させていただけるように、アポイントを取り、日程調整を行った。

実際に、訪問を行った結果、どの学校及び教育委員会でも親切丁寧に対応していただき、貴重な資料を得ることができた。ただし、来年度の募集要項や入試選考手続きについては、夏季休業中ではまだ時期が早く、昨年度の実績に基づいたものしか示せない状況がある。しかし、入試担当者と担任が直接会って、情報交換できる機会がこの1度だけであるため、担当者に海外にある日本人学校から受験の希望があるということを知っていただくだけでも、大変有効である。

特に、入試の手続きについては、保護者が行わなければならないので、担当者の名前を担任が知っていることも、保護者としては、大変安心できるようである。このように、日本人学校として帰国生の進学について、できる限りの準備をしておくことが、海外に住む生徒や保護者に安心感を与えることにつながるのである。

(5) 進路相談会

平成19年7月、在中国華東地区の各日本人学校を対象に、海外子女教育振興財団主催の海外巡回教育相談を実施することができた。この巡回教育相談には、これまで日本人学校を経験され、海外子女教育振興財団で子女教育専門相談員として、勤務されている先生を日本から現地に派遣していただき、相談を受けることができる大変、貴重な機会である。そこで、日本人学校に通学させている保護者のみならず、青島在住のインターナショナルスクールや現地校国際部に通学させている保護者にも、参加していただきたいと考え、日本人会の協力を得て、広く相談者の募集をした。在籍者10名であったが、相談者14名と多くの保護者の方の参加があり、大変好評であった。また、個別相談後には、本校教職員の職員研修として、在外教育施設出身の生徒の進学指導について、講話いただくことができた。日本人学校に勤務した経験に基づいた貴重な講話を聞くことができた。

(6) 実力（学力）テストの実施

進学のためには、学力による選考は免れない関門である。しかし、海外で生活する生徒や保護者が志望校に対する学力水準に達しているのかを診る客観的な資料を得ることは困難である。そのため、本校では、教育活動の

表2 職場体験学習受け入れ事業所一覧(平成20年度)

産業	業種	事業所名
サービス業	ホテル	花園
	ホテル	シャングリラホテル
	日本料理	櫻花苑
	日本料理	日本料理月山
	日本料理	割烹山前
	喫茶店	Doll's Kitchen
	美容	アブローズチエコ
金融	銀行	山口銀行
旅客	運輸	日本航空
旅客	運輸	全日空
広報	通信	すまいる青島
卸売・小売	スーパーマーケット	ジャスコ

中に、民間の学力テストを実力テストとして、3ヵ年間で7回位置づけ実施している。

実施するにあたり、受験料や通信費などについては、保護者に費用負担をしていただいている。テスト結果は、志望校に対する合格可能性の判定や学習面でのアドバイスなどが返却されるため、生徒・保護者にとっては、貴重な進路指導資料として活用できている。

しかし、全国版の学力テストであるため、判定基準が地域の実情に合っていなかったり、問題の難易度が低かったりと、問題点も多いが、実施することにより、生徒・保護者の進学に対する意識の向上につながっていることは確かである。

(7) 進学先実績

表3 卒業生の進学先一覧

日本人学校には、公教育を行うという公的教育機関としての一面と、現地国際部やインターナショナルスクールといった教育施設と同等な国際学校として、生徒数を確保しなければならないという私的教育機関の一面もある。生徒の個人情報を守る上で、進学先などについては一般公開できない。しかし、新しくできた日本人

年度	区分	学校名	男	女	合計
18	現地	青島五十八中国際部	0	3	3
19	公立	横浜市立翠嵐高等学校	1	0	1
19	現地	青島五十八中国際部	1	0	1
20	公立	奈良県立奈良高等学校	1	0	1
20	私立	常総学院	0	1	1
20	私立	竹園学園	0	1	1
20	現地	青島五十八中国際部	1	0	1

学校の卒業生がどのような進路を選択できたのかは、現地日本人社会においては体験関心の高いことである。

本校は、平成18年度に第1期の卒業生を送り出し、3年間で9名しか卒業生はいないが、進学先は表3のようになっている。家庭の都合で、現地の残り現地校国際部に通う生徒も、帰国して高等学校へ進学する生徒も、それぞれが目的意識を持って進学している。特に、現地校国際部では日本語での授業が全く無く、英語と中国語での授業が行われる。そのような状況にも対応できるように、中国語を意欲的に学んだり、学校見学などを行ったりしている。

3. おわりに

本校のように日本人社会の規模も学校の規模も小さい在外教育施設においては、生徒が職業や進路に関して、情報を得たりすることが困難である。しかし、中学部での3年間を見通した系統的なキャリア教育は、学部運営の根幹ともいえる大きな課題である。日本の中学校と同じように、卒業後の進学指導をはじめ、キャリア教育の視点に立って、特別活動や道徳、総合的な学習の時間との連携を図りながら学校行事を企画・運営し、生徒の主体的な進路選択を支援していくことが、在外教育施設での大きな役割であると考えられる。

私が赴任した青島日本人学校は、開校3年目で中学部としてのキャリア教育に関して、これまでの実績がほとんど無い状態でのスタートであり、新たに行動を起こさなければならないことばかりであった。しかし、全職員がアイデアを出し合い共通理解し、保護者や地域社会と協力しながら、教育活動の充実に取り組めたことは、自分自身にとっても大変貴重な経験となった。

最後に、現地日本人会や海外子女教育振興財団など、協力いただいた方々に心から感謝申し上げ、教育活動の実践報告とする。